

令和7年度のカサゴ稚魚放流

今年も都漁連内湾釣漁協議会の御協力をいただき、令和7年7月23日（水）に羽田空港D滑走路北側のスリット護岸周辺水域において、カサゴ稚魚2万尾を放流しました。今年放流した稚魚は、宮崎県で種苗生産されたもので、平均全長7.4cm（平均体重6.8g）で、輸送中にへい死する個体もなく、放流後は元気に海底へと泳いでいきました。カサゴは定着性が高く大きな移動をしない魚種であることから、放流後もD滑走路周辺の海域に留まり成長していくことが期待されます。当協会による羽田空港D滑走路周辺の調査では、様々なサイズのカサゴが延縄や刺網で採捕されるようになっており、放流したカサゴの一部は親になり再生産に寄与しているものと思われま



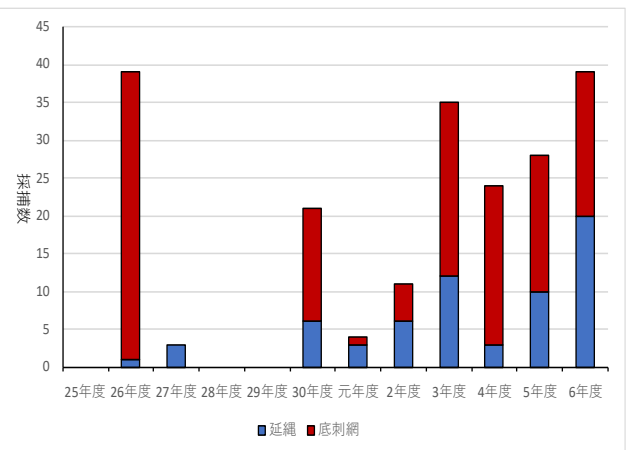
す。当協会では平成7年度からカサゴ放流事業を開始しており、これまでの累計放流尾数は56.5万尾になっています。今後も豊かな東京内湾を目指して放流事業を継続してまいります。

当協会では平成7年度からカサゴ放流事業を開始しており、これまでの累計放流尾数は56.5万尾になっています。今後も豊かな東京内湾を目指して放流事業を継続してまいります。

(放流実績はこちら <http://tokyoto-naiwan.server-shared.com/houruo.html>)。



カサゴの積込作業
(都漁連内湾釣漁協議会の協力をいただきました)



D滑走路周辺の調査で採捕されたカサゴ採捕数の推移